

P94, L.20	誤「37の研究の効果量は、即時言語記憶で中等度であった」 正「37の研究の効果量はそれほど大きくなく、ただ即時言語記憶で中等度から大きな効果量であった」
P103, L.20／P108, L.5	誤「転帰」→正「結果」
P111, 下から L.2	誤「転帰」→正「データ」
P113, L.7	誤「治療様式」→正「作用の仕方」
P133, L.2	誤「統制群と比較すると、多くの参加者たちは訓練後は相当な遂行得点の低下を見せたことが示唆されてきた」 正「多くの参加者たちは、訓練後にも、対照群と比べれば、まだ遂行得点が低下していることが示唆されてきた」
P143, L.16	誤「認知的治療を仕立てるのに役立つと考えられるが」 正「認知的治療の個別化に役立つと思われるが」
P150, 下から L.3-4	誤「無動」→正「頑固」
P155, L.14	誤「結果は、両群とも認知機能の改善が見られたが、介入群では初期から改善効果に違いが見られた。しかしながら、両群で平均年齢が異なっていたので、統計分析にこうした改善効果は参加者の年齢を共変量にすると見られなくなった」 正「結果は、両群とも認知機能の改善が見られた。コンピューター訓練群では最初から成績が良かったが、これらの差異は、分析の際に、年齢（両群で異なっていた）を共変量にすると消失した」
P159, L.2	誤「2つには、社会機能と記憶機能の双方向的な機能的関連があると考え、結果の因果関係について間違った考察をしようことが考えられる」 正「2つには、社会機能と記憶のモデルが、相関関係に基づいて構築され、これらの相関関係が因果関係であるかのような間違った印象を与えた」
P179, L.4	誤「これは、よりよい仕事の転帰が援助つき雇用とより高次の認知の変化の組み合わせをもたらすだけであるので、McGurk と Mueser のモデルの間接的な裏づけにすぎない」 正「これは、よりよい仕事の転帰が、援助つき雇用とより高次の認知の変化の後に続くだけであるので、McGurk と Mueser のモデルを間接的に支持しているにすぎない」
P180, L.12	誤「急性期の間、認知のはたらきの選択と遂行のための認知メカニズムは、活性化閾値の階層が解体しており、機能しないとされている」 正「急性期の間は、認知的操作を選択し、遂行する認知メカニズムは機能せず、その結果、活性化閾値の階層の解体をもたらすといわれている」
P188, L.12, 15, 17	誤「反射的」→正「内省的」
P188, L.17	誤「反射的過程においては明示的な教示」→正「内省的処理を明確に教育すること」
P211, 下から L.1	誤「目的の意味」→正「目的意識」
P215, L.3	誤「今まで採用されてきた教示方法によって、スキルの転移の障壁が確立されてしまっている」 正「採用された教示方法によっては、スキルの転移の障壁ができることがある」
P215, L.15	誤「致命的な反射力」→正「内省力にとっては致命的」
P217, L.14	誤「参加者の力や困難を評価したりせず」 正「参加者の特長や困難さに対して、審判的な態度をとらず」
P218, 下から L.2	誤「メンタル・ジム（心の体操）」→正「メンタル・ジム（頭の体操）」

P.223 の表 9.1 の中	誤「教授方法」→正「方略の教育」
同上	誤「統合 ・他の治療スタッフ・他の領域での行動の強化」 正「一般化 ・他の治療スタッフが、他の領域での認知的スキルを強化する」
P.227, 下から L.9	誤「異常な行為は、全般的で幅広いスキーマに基づくものである。なお、いかなる状況でも原理や構造の抽象化によってスキーマは発展する。多くの技法は、状況間の表面的な類似性よりむしろ抽象によることが奨励されるようになる」 正「一定でない諸行動を適切に導く場合に、もっとも有用となる一般的で幅広いスキーマは、与えられた状況から基本原則や構造を抽出することを通じて発達する。状況間の表面的な類似よりむしろ抽象に依拠することを人々に奨励するために、多くの技法が使われうる」
P.245, L.6	誤「臨床的に使用する際、および変化の根底にあるメカニズムの理解のために限定されるだろう」 正「臨床的には、および変化の根底にあるメカニズムの理解のためには、使用は限定的になるだろう」
P.247, L.8	誤「これはその測度が測ろうとする概念がどの程度正確に現れているかに関係する」 正「これは、その測度が、測ろうとする構成概念をどの程度正確に反映しているかということである」
P.248, L.13	誤「適切な経験がまったくないと、不正確さや潜在的に障害をあたえる結果へとつながる。特に、ケース記録に繰り返し見られたり、サービス計画の点で広範にわたってみられる検査結果の場合、正確で、注意深いアセスメントの重要性を少なく見積もるべきではない」 正「適切な経験がないと、不正確で侵害の結果へとつながり得る。特に、検査結果は、ケース記録に繰り返し現われ、サービス計画に広範な影響をもたらす傾向があるので、正確で、思慮深く、注意深いアセスメントの重要性を少なく見積もるべきではない」
P.252, 下 L.9	誤「認知の長所と問題のメタ知識を含むメタ認知（すなわち、認知機能に関連する洞察）」 正「認知的な特長と困難さについてのメタ知識（すなわち、認知機能に関する洞察）を含むメタ認知」
P.256 の図 10.1 の	「転移」のボックスの 6
	誤「積極的参加」→正「契約」
P.254, L.7	誤「場独立－場依存はおそらくもっともよく知られている（Witkin, 1961）。これは、包括的と対照的に分析的方法でアプローチする傾向を調べる」 正「場から独立と場に依存の対は、おそらくもっともよく知られている（Witkin, 1961）。これは、グローバルな仕方に対して、分析的な仕方、環境にアプローチする傾向を指している」
P.255, L.4-6	誤「よくある症状の行動面でのあらわれ（…）よくある認知機能障害の行動面でのあらわれ」 正「・症状の日常行動面でのあらわれ（…）・認知機能障害の日常行動面でのあらわれ」
P.293, 下から L.1	誤「薬物治療のアドヒアランスと同様に、生活技能、仕事を改善する治療に関する現在の処方では、認知的問題の説明に失敗していることで明らかな限界があり、成功とおなじだけの失敗を生み出すだろう」 正「服薬のアドヒアランスだけでなく、生活技能と雇用を改善させるための現在の治療処方、認知的問題を考慮に入れていないことで明らかな限界があり、成功と同じだけの失敗を生み出すだろう」